

## 【 砥部分校 人権だよりについて 】

令和6年度、初めての人権だよりを発行します。

砥部分校では、学期に一回、人権・同和教育ホームルーム活動を行っています。その司会や進行、郊外研究をクラスを中心となって行ってくれているのが人権委員さんです。人権委員は皆さんが、皆さんのリーダーとして選出し、代表として活動してくれています。

人権だよりは、人権委員による活動です。各クラスから選出された2名の委員が、各学期に一度発行します。今学期は3年生人権委員が担当です。今回のトピックは以下の通りです。

- 心に残った人権資料「2年生の人権・同和教育ホームルーム活動で知った絵本と作文」
- 1学期 人権・同和教育ホームルーム活動報告



## 【 3年生人権委員が推薦する 「心に残った人権資料」 】

「なまえをかいた」吉田一子著

皆さんは、識字学級をご存じですか？識字学級とは学校教育を受けられなかったなどの理由で文字の読み書きが十分に身に付けられなかった方々が読み書きの力を取り戻すための学習会です。

「なまえをかいた」には、識字学級に通う吉田一子さんが心を込めて書いた直筆の作文が詰まっています。私たちは普段当たり前のように字を読み書きしていますが、吉田一子さんにとってはそうではありません。一文字一文字を宝物のように思いを込めて書いているのです。吉田一子さんが体験したことを吉田一子さんの思いが詰まった字で読むことのできる一冊。ぜひ手にとって読んでみてください。

「ひらがなにつき」長野ヒデ子絵

愛媛県出身の長野ヒデ子さんが描いたこの絵本は、「なまえをかいた」の内容がぎゅっと詰まった作品です。長野ヒデ子さんのあたたかく柔らかいタッチで描かれていて、クスッと笑えるのですが、同時に考えさせられる内容です。私が特に好きな場面は、駅の落書きに憤りを感じている場面と、お孫さんに手紙を書く場面です。一子さんの文字に対する思いがひしひしと伝わってきて、字を学ぶこと、読み書きができることの尊さを改めて感じさせられます。ぜひ読んでみてください。

## 【 1学期の人権・同和教育ホームルーム活動 】

### 1年【 よりよい人間関係をつくろうー SNSのトラブルー 】

私たちは、SNSの利用で起こるトラブルについて話し合いました。

メールのやり取りの中で、誤解を招くようなメッセージをなくすためにできることなどをクラスみんなで考えました。例えば言葉だけではなく、絵文字や！マークや？マークを加えることで情報が正しく導かれるのではないか。や、メッセージを受け取った側も、その内容に違和感を覚えたら質問をする。など、の意見が上がりました。この授業からSNSでメッセージを送るときには、相手がそれを見てどう思うかをしっかり考えて送ることが大切だということ学びました。コミュニケーションには、方法はどうであれ相手に対する配慮が必要だと思います。このホームルームを行って、クラスみんながそのテーマについて深く考え、自分から進んで意見を発表していたのが印象に残りました。



←  
1年生の様子



2年生の様子  
→

### 2年【人権獲得のあゆみー 部落差別の起こりを学ぼうー】

前半は、中世と近世の差別について学び、差別が生まれた背景と差別が根付いた社会のしくみについて学びました。後半は、洗染一揆について学び、暴力を使わず嘆願書や話し合いで成功させた要因について班で話し合い、考えを深めました。

前半の差別の起こりを学ぶ場面では、中学校で学んだことがある人も多かったですが、思い出したり確認したりしながら、まじめに話を聞いていました。差別が生まれた背景が理不尽なことばかりでひどいと思いました。鎌倉、室町時代に生まれた差別が今もまだ残っていることに驚きました。

「なぜ洗染一揆は成功したのか」について班で話し合った際には、自分の素直な考えや思いを班員に伝えながら、みんなで考えを深めている様子が見られました。要望を伝える相手に対して、感情的な怒りで表さず、冷静に論理的、建設的に伝えることの大切さを学びました。そして諦めない心と行動力が必要だということを感じました。差別について学ぶことは、同じ過ちを繰り返さないためだと思って取り組みました。悲しみしか生まない差別をなくしたいです。

3年生の様子↓



### 3年【 確かな進路保障のために 】

3年生は「就職差別（差別選考）」について学びました。3年生になった今、入学試験や就職に向けて面接練習をしている人も増えてきています。その際に、どのような質問は適切で、どのような質問が差別につながるのかをそれぞれ考えました。血液型や尊敬している人物など、何も知らなかったら答えてしまいそうな質問でも、就職差別に繋がっていることを知り、多くの人が衝撃を受けていました。班別活動では、これらの質問を受けた時、どう答えるべきか実践形式で学びました。選考のために必要のない質問をされたら、はっきり「お答えできません。」と言えるように、みんなが積極的に活動していたのが印象的でした。今回の学習を通して、自分が差別選考を受けた時の取るべき行動が身についたと思います。公平に私自身を選考してもらい、クラスみんなが希望する進路に進めるように頑張りましょう。